

# グローバル社会に求められる 「新しい人間力」「新しい学力」を磨く

**海城中学・高等学校は今年創立120周年を迎えた伝統校だ。毎年、国公立大をはじめとする難関大への合格者を多数輩出している。その教育の特色と今後の展望について、中田大成教頭に話を聞いた。**

——教育の特色について教えてください。

**中田** 本校は、「国家・社会に有為な人材を育成する」という建学の精神に基づき、リベラルでフェアな精神を持つ「新しい紳士」の育成をめざした教育を行っています。1991年に創立100周年を迎えましたが、その翌年を「改革元年」と位置付け、「もう一度建学の精神に立ち戻ろう」「初心に帰ろう」という考えのもと、現在も教育改革を進めています。

——設立当時と今とは社会情勢は変化していますが、建学の精神が現在の教育にどう生かされているのですか。

**中田** 世界がグローバル化する中で、価値観は多様化しています。このような時代に求められる“有為な人材”とは、「人間力と学力のバランスのとれた人間」です。ここで言う「人間力」「学力」とは、新時代が要請する「新しい人間力」「新しい学力」のことで、それらを旧来のものとバランスよく身につける必要があります。

——「新しい人間力」とはどのようなものですか。

**中田** ヒト、モノ、資本、情報が国境を越えて行きかう現代社会においては、国家や文化、民族などが異なる人と関わっていかねばなりません。異質な者が集まるとトラブルが起こることもありますが、そういったネガティブな面だけでなく、互いの長所を引き出して

共生すれば、「1+1+1」が4や5にもなりうるのです。そうした中で求められる新しい人間力とは、互いの違いを理解し、尊重した上で共生していく能力のことです。具体的には対話的



**社会科論文**  
中学2年の終わりにテーマを設定し中学3年時に30~50枚の卒業論文を各自執筆する。

なコミュニケーション能力と新しい価値の創造のための協働、コラボレーションの力が必要です。

——その能力をどのように身につけていくのですか。

**中田** 中学1・2年で、アメリカで開発されたPA（プロジェクトアドベンチャー）と、DE（ドラマエデュケーション）という体験型学習を取り入れています。

PAは、仲間と共に身体を動かしながら、コミュニケーション能力やコラボレーション能力を高めていくプログラムです。生徒たちを丸太の上に並ばせて、言葉を発することなく、身振り手振りで意思を伝えながら生年月日順に並び直させるものや、高所で仲間にした命綱に支えられながら、自己の選択・意思で綱を渡っていく課題などがあります。これらの課題を通してチャレンジするためには、信頼で結ばれた仲間のサポートが必要なことを学びます。一つの課題が終わると意見を述べ合い、何らかの気付きを持たせ、それを一般的な知識として消化させます。そうすると、同じようなことが教室で起こった時に、その体験が生かされるのです。

また、DEでは演劇の手法を利用して、生徒をグループに分け、小説を音読で聞かせて印象に残ったシーンを演じて写真に収めます。その写真を互いに批評し合うことで、外側からの視点を持って、人との関係性や距離感、登場人物の内面、視線の意味などについて考えます。

こうした取組みは、2年続けて文部科学省が実施する「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験事業」に採択されるなど、高い評価を受けています。



**DE（ドラマエデュケーションプログラム）**  
演劇の手法を利用した体験学習

**PA（プロジェクトアドベンチャー）**  
生徒同士が身体を動かして課題を含むアクティビティに取り組む

——新しい学力はどのように培っていくのですか。

**中田** 従来は体系的な知識を頭に収め、必要な時に早く正



●学校行事



●クラブ活動



●授業風景



●理科

確に引き出すなど、記憶系の学力が中心でした。ところが、社会が複雑化するにつれ、答えが自明でない問題が多数を占めるようになりました。そこで、新しい学力として求められているのが、複雑な問題を解決に導く「Critical Thinking（クリティカルシンキング）」の力です。本校では、中学1~3年までの週2時間、社会科の時間に、課題に対して自ら取材に行ったり文献やインターネットなどで情報を集め、レポートや論文を作成する総合学習の時間を用意しています。1年から一人で取材に行かなければならないのでとても勇気が必要ですが、教員たちも、職場にアポイントをとる電話のかけ方から指導しています。また、中学3年では課題を自分で設定し、30~50枚の卒業論文を執筆します。

この総合学習の機会が将来の仕事を考えるきっかけになるなど、キャリア教育としても大きな意味を持っています。

キャリア教育としては、このほかにも、「プロフェッショナルとはどういうことか」を話してもらうために、プロのカメラマンや企業経営者、財務官僚、大学院の博士課程に在学中の学生など多数の卒業生を招き、講演を開催しています。

——毎年、国公立大を含む難関大に多数の合格者を出していますが、どのような進学指導をしているのですか。

**中田** 社会科の総合学習などを通して「新しい学力」を養うためにも、基礎基本の学力や知識が不可欠です。カリキュラムでもその点を配慮し、国語・英語・数学などの主要教科における基礎ベースの学力は教員の自主教材などを利用しながら鍛え上げていきます。センター試験レベルであれば基

礎基本の知識が中心となりますし、国公立大の二次試験では総合的な学習で身につけた高い分析力や思考力、記述力が生かされます。つまり、基礎基本の学力と、総合学習によって培われたクリティカルシンキングの力を中学の段階から身につけていることが、結果的に大学進学実績にもつながっているのです。

——2011年度から、募集を変更されましたね。

**中田** “共生教育”をさらに推し進め、国際社会で活躍できる人間を育てるために、今年から高校の募集を停止し、中学で30名の海外帰国子弟を迎えています。海外での生活・学習体験を尊重しつつ、一般生と同じカリキュラムで学ぶことで、国内で育った大多数の生徒にとっても世界に目を向け、世界に通じる対話的能力を身につけるよい機会になると考えています。

国際化時代を生きる人材を育成するプログラムとして、IB（国際バカロレア）DP（ディプロマプログラム）が確立されていますが、本校ではこのプログラムを参考にしながら、あくまで進学校として、インターナショナルスクールやIB認定校でもない「第三の道」を歩みながら、グローバルな人材を育成していきたいと考えています。



**中田大成 教頭**

## 海城中学校 海城高等学校

〒169-0072 東京都新宿区大久保3-6-1 TEL 03-3209-5880 FAX 03-3209-6990

<http://www.kaijo.ed.jp>